

処方・調剤・ 保険請求の



日本薬剤師会

調剤をしていて疑問に思ったこと、医師または患者さんに聞かれて困ったこと、医師に疑義照会して対応したがいまひとつ納得できないこと、ありませんか？ 皆さんの疑問に各分野の専門家がお答えいたします。

ご質問をお寄せください。要項は52頁にあります。なお、回答は本誌に掲載することによってのみ行います。電話やファクシミリによる回答はご容赦ください。また、特殊なケースの質問は、採用されないこともありますのであらかじめご了承ください。

Q 今回の震災（東日本大震災および長野県北部の地震）に伴う対応で、被災地の避難所や救護所などで交付された処方せんについては、どのように費用を請求することになるのでしょうか。通常の保険処方せんの様式が使用されている場合であったり、保険者番号や保険医療機関名などが記載されていて、保険処方せんの内容を満たしている場合であれば、保険調剤として保険者へレセプト請求すればよいのでしょうか。（匿名希望）

A 避難所や救護所などで診察を受けて交付された処方せんは、災害救助法の適用となりますので、その費用は県市町村へ請求することになっています。保険適用（健康保険法）としては取り扱われません（表）。また、保険者番号や保険医療機関名などをはじめ、保険処方せんに必要な情報がすべて記載されていたとしても、その処方せんが避難所や救護所などで診察を受けて交付されたものであって、災害救助法の適用が明らかである場合には、保険診療・保険調剤として取

り扱われません。すなわち、支払基金または国保連へレセプト請求するのではなく、県市町村へ費用を請求する必要があります。

Q 一部負担金については、災害救助法の適用市町村に住所を有する者であって（地震の発生後に、当該市町村から他の市町村に転入した場合も含む）、かつ、住家が全半壊・全半壊などであるために患者から申し立てがあれば、当面、5月末までは支払いが「猶予」されていますが、「猶予」ということは、患者から支払いを受けなかったぶんについては、後日、遡って徴収する必要があるということでしょうか。また、患者からの申し立てについては、文書でなければならないのでしょうか。（匿名希望）

A 今回の被災により一部負担金の支払いが猶予されている患者について、保険薬局や保険医療機関で窓口負担（一部負担金）を徴収しなかった場合には、各保険者へ10割として保険請求することになり

表 被災地における処方せんの取り扱いについて

I. 被災地（災害救助法の適用対象市町村（東京都を除く。）をいう。以下同じ。）をいう。

問5 避難所や救護所等において診察を受けて発行された処方せんによる調剤は、どのような取り扱いになるか。
（答）保険調剤として取り扱うことはできない。（災害救助法の適用となる医療については、県市町村に費用を請求する。なお、当該費用の請求方法については、県市町村に確認されたい。）

問6 保険診療による処方せんとはどのように区別したらよいか。
（答）災害により避難所や救護所等において発行された処方せんについては、当該処方せんに「㊦」と記されている場合もあるが、災害救助法の適用が明らかな場合は保険診療としては取り扱われないので、処方せんの交付を受けた場所を患者に確認するなど留意されたい。

（厚生労働省保険局医療課「東北地方太平洋沖地震及び長野県北部の地震に関する診療報酬の取扱いについて」2011年4月1日事務連絡より）

処方・調剤・ 保険請求の Q & A

ます。したがって、窓口で支払いを受けなかった患者から、後日、遡って保険薬局や保険医療機関が支払いを受ける必要はありません。

一部負担金の減免または猶予の取り扱いについては、後日、各保険者が判断・決定することになりますが、厚生労働省としては保険者に対し、一部負担金の減免・猶予について依頼する予定とのことです。

また、患者からの申し立てについては、具体的な方法まで決められているわけではありませんので、口頭によるものであってもなんら差し支えありません。ただし、申し立てがあった場合には、その内容を調剤録などに記録しておくことが必要です。

そして、申し立てがあった患者には、後日、保険者から患者に対して内容の確認が行われることがあることを伝えておきましょう。

被災のため、やむを得ない理由により患者が保険医療機関を受診することができず、処方せんを持参せずに来局した場合であっても、①主治医(または主治医以外の医師)に連絡して処方内容を確認することができる、または、②医療機関に連絡が取れないとしても、お薬手帳などにより過去の処方内容が安

定した慢性疾患にかかるものであることが確認できる——のいずれかであれば、保険調剤として取り扱うことが認められていると聞きました。ただし、その際には「事後的に処方せんが発行されること」が条件であるとのことですが、処方せんはいつまでに交付してもらう必要があるのでしょうか。また、事後的に処方せんを交付してもらう前であっても、保険請求はできるのでしょうか。
(匿名希望)

A 被災のため、患者が処方せんを持参せずに調剤を求めてきた場合には、「事後的に処方せんが発行されることを条件」として、一定要件に該当する場合に限り、「保険調剤として取り扱って差し支えない」とされていますが、この「事後的」の取り扱いについては、過去の事例と照らし合わせてみても、具体的な期限が設けられているわけではありません。したがって、それぞれの事情に応じて個別に判断していくしかないでしょう。

また、その際の保険請求については、「事後的」に処方せんを発行してもらう前であっても可能であり、レセプトを提出するうえで特に問題はありません。

質問の募集

調剤をしていて疑問に思ったこと、医師または患者さんに聞かれて困ったこと、医師に疑義照会して対応したがいまひとつ納得できないことなどはありませんか？ 皆さまの疑問に各分野の専門家がお答えいたします。どしどしご質問ください。

「質問の募集」要項

1. 質問の範囲

①実際の処方せんの疑義解釈に関する質問

たとえば、処方医に疑義照会すべきかどうか迷っている事例や疑義照会の際に処方医の指示で納得できないでいる事例で、専門家の意見が知りたい、という場合など。

②保険調剤・調剤報酬などに関する質問

たとえば、どのようなケースが調剤拒否に該当するのか？ 請求もれがあった場合の対応は？ という質問など。

③調剤技術などに関する質問

たとえば、A散とB末を配合してもよいのか？ また、C錠を粉砕

してよいのか？ という調剤技術上の質問など。

2. 質問は文書で日本薬剤師会『調剤と情報』係まで、ご連絡ください。

3. 誌上では匿名の扱いをいたしますが、さらに詳しい内容をお聞きしないと回答できないこともありますので、住所、氏名、電話番号を必ず明記ください。

4. 質問の採否ならびに回答者の選択は、編集委員会が決めさせていただきます。

5. 質問ならびに回答は無料です。

6. 質問が採用された方には、じほうから図書カードが贈呈されます。

ただし、本コーナーへの質問はあくまでも『調剤と情報』誌への掲載を前提としておりますので、個人的・特殊な質問にはお答えできません。ご了承ください。また、回答は本誌面によってのみ行います。電話やファクシミリによる回答はご容赦ください。

送付先 〒160-8389 東京都新宿区四谷3-3-1 富士・国保連ビル 日本薬剤師会「調剤と情報」事務局
TEL.03(3353)1170 FAX.03(3353)6270